

公益社団法人 私立大学情報教育協会
2023 年度第 1 回短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会議事録

- I. 日 時 令和 5 年 6 月 26 日(月)18:00~20:00
場 所 Zoom 会議室
- II. 出席者 戸高委員長、三田委員、西岡委員、後藤委員、大重委員、治京委員、早坂委員
及川先生(山野美容芸術短期大学)、深町先生(和泉短期大学)
(事務局 井端事務局長、中村、山田)

III. 報告事項

1. 昨年度事業の報告

資料②の事業報告書の「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」を抜粋した内容に沿って、短期大学コンソーシアムによる地域貢献支援事業の活動内容として、高齢者支援事業、地域価値発見支援事業の成果、地域課題取組み情報共有の Web サイトの整備について、事務局から報告が行われた。

2. 本年度の事業計画

資料③の短期大学教育改革 ICT 戦略会議の 2023 年度事業計画について、短期大学生の社会人基礎力の強化、短期大学のプレゼンス向上を促進する事業として、9 月 22 日に「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」をオンラインで実施するとして、複数の短期大学と自治体等が協働する地域貢献支援活動コンソーシアムの試行結果を報告し、支援事業の教育効果、運営上の課題を共有し、推進普及に向けた対応策等について協議することになっている。また、話題提供として、予測困難な時代に幸せに生きるための力を身につける教育改革の取り組み事例などの紹介を考えており、6 月下旬から開催要項及び会議に向けた運営方法などを検討することが報告された。

IV. 検討事項

1. 地域貢献支援事業の紹介の仕方について

資料④の「地域貢献支援事業の紹介の仕方について(メモ)」に沿って、事務局から紹介の目的、地域貢献支援事業を導入しようとする大学に実践ノウハウの参考情報を紹介する内容、紹介の方法と時間配分、全体討議の意見交流の方法について説明が行われた。

その上で、以下の支援事業の委員及びコンソーシアム参加校から次のような報告及び意見交流が行われた。

① 高齢者支援事業

- 一つは、カルタ作りを通して高齢者とのコミュニケーションを深める機会とするため、高齢者の 2 団体と実践女子大学の学部生、実践女子短期大学部生、山野美容芸術短期大学生が協働・分担して、健康・美容・食生活に関するカルタを作り、7 月に高齢者を交えてカルタ大会を計画している。高齢者が生き生きと生活できるように、どんなことに日頃気を付けたほうがいいのか、ということカルタにしてみようかということから始まった。その過程で、画像を作る生成 AI アプリ(Canva)を用いて簡単に絵を作っている。また、カルタのセリフも ChatGPT に相談し、意外に面白いのができることが分かった。それを高齢者の方に紹介するため、7 名の高齢者と学生 15 名が Zoom で説明会を開き紹介することがあった。もう一つは、別の試みとして、学生と高齢者がより深く互いの考え方、人生観を紹介し合うことで、より深いコミュニケーションの機会を持つことを目指して、学生が一番興味を持ち夢中になっていることをキーワードにして、また、高齢者が青春時代に体験したことの重要なキーワードを聞き出し、それらをもとに ChatGPT などを用いてショートストーリーを作り、高齢者に発表してコミュニケーションを深めることを計画している。
- 「かるた」はツールなので、ChatGPT で学生に「何ができて何ができないのか」を体験させることであれば、支援事業に関心を持つようになると思う。ChatGPT を学生にどうやって体験させるかという視点で、いろいろなストーリーを作るとか、何か印象となるイメージ画像を作るとか、著作権をクリアさせる中で、創造的な場面で実体験させるというのであれば、就活対策としても期待できる。今大学で取り扱わなければいけない問題として、ChatGPT を活用して社会人基礎力を上げていく、キャリアアップの一つになるところを強く主張できるのではないかと思う。

○ 学生にとってカルタを美容・健康をテーマに作るのが大変だが、ChatGPTに相談すると瞬時にいくつものカードを出してくれる。その中から学生が有効に使えるものを選ぶなどしている。また、異世代の方に青春時代をたずねると、例えば、純喫茶、グループサウンズなど、学生が知らない話が続々と出てくる。それを学生が自分の創造力とChatGPTに相談しながらショートストーリーを作り、異世代の人に発表することで、より深くお互いの考え方や人生観を紹介し合ことで、コミュニケーションを深める場ができるのではないかと考えている。

○ ChatGPTは素晴らしい、是非やってみたいと思う。他の短期大学、大学の先生方も関心を持たれるのではないかと考える。正課の中でサービスラーニングとして行うことがよいのではないかと。課外活動した時間を積算し、何十時間以上活動があったら単位認定することにしている。正課の授業であれば、予算もつきやすいし、成績にもなるので進めやすいと思う。

② 地域価値発見支援事業

○ 課外授業での活動というのは、やはりなかなか難しいなと感じている。「真珠探求プロジェクト」に参加させていただいたすけれども、現状は、相模原市の11大学が連携して私立大学改革総合支援の地域連携のプラットフォーム型の補助金を目指しており、9月、10月に立ち上げ、来年度本格化していくことにしている。支援事業で積み重ねたようなテーマなども利用させていただきながら、地元でコンソーシアムを形成する構想が進んでおり、まだ模索をしているような状況である。

○ 課外授業を4校で行うことが難しかった。学生の参加も減ってきたことから、どのようなエッセンスを入れたらいいのかということも見えてきた。短期大学間で繋がることを目指して外部ツールのZoomとClassroomで意見交流や理解の共有を行うことができた。実際のノウハウとしては、タイムスケジュールを実際に見せ、学生同士での意見のやり取りを見せる。当日、見られない学生へのケアの仕方や、アウトプットとしての成果について、学生同士の相互評価が効果的であった。今後の進め方としては、自治体に問題提起をしていただき、それに対して本協会のコンソーシアムで問題解決を提案することを通じて、繋ぐことができるのかと考えている。短期大学以外の大学や高専でサポートができると感じた。

○ 授業の一コマで強制的に社会貢献を行っていることから、学生が主体的になれないというようなところがあり、授業に出たくない、途中から来なくなる学生とかがおり、学生の動機づけをどうしたらいいのかという根本的な問題を抱えている。また、課外で学生に地域貢献をさせるというのが、短期大学のプログラム上で物理的に困難な状況にある。

○ 少し戦略を変える必要がある。一つは、課外授業で地域貢献活動をアピールするのは止める。短期大学授業の一コマを使いながら、学生にサービスラーニングを体験させる方向で呼びかける。もう一つは、何処の短期大学も飛びつきそうなテーマが必要で、ChatGPTの観点で紹介するほうが、説得力があるかなと思う。高齢者支援事業のようにChatGPTを使って「かるた」カードの作成を通じてコミュニケーションを深めていくという活動に切り替えて紹介していかないと難しいのかなと感じた。短期大学が淘汰される時代に入ってきたことを考えると、サービスラーニングしながら、ChatGPTを使いこなす新しい地域貢献支援事業を考えざるを得ないのかなと思う。

○ 「かるた」を作る課程で、ChatGPTを使っているプロセスを高齢者に苦労したことを一緒に共有し、デジタル時代の語り部的になっていくなどの価値があると思う。真珠価値プロジェクトでは、別府短期大学、和泉短期大学と協働する中で、地域の特性、短期大学の特性を反映して連関を作るといい体験をしたと思うが、全体の反省の中でコストが調べられなかった。今回のChatGPTを用いて、地域貢献活動で作る地域価値のコストについてChatGPTを使って、学生視点で見つけられるのではないかなと思った。

○ 地域貢献支援事業の一つの手段としてテーマを決めて、ChatGPTを使わせてみる。経済価値をコスト計算させてみるとか、インバンドでどれくらいの人を呼び込めるのか、ChatGPTを使ってできるのではないかと考える。ChatGPTを使って、地域の価値を高めるとか、創生とか、そういうものに繋がられるようなサービスラーニングの構想を出してもらいたい。

③ 地域課題取組み情報共有の支援事業

- 高齢者はいろいろな問題を抱えている。問題は、学生がどのように理解するか、社会に対する問題意識を持つきっかけになるといいのではないかなと思っていたが、社会的な問題を理解することが非常に難しいと思う。しかし、問題点は持つことは社会人基礎力の面でも非常に大切なので、今のこの活動をいい方向に進めることができるのではないかと感じた。

2. 今後の準備日程について

次回委員会までに、ChatGPTなどを活用した高齢者支援事業の試行結果の紹介コメント、ChatGPTなどを活用した地域価値発見支援事業の構想コメントのメモについて、7月3日を目指して提出することにした。また、開催要項の検討は次回としたが、話題提供については、Active Learningを柱とした学びの中で、課題に立ち向かう力、粘り強く取り組む力、コミュニケーション力など、予測困難な時代の中でも生涯幸せに生きるための力も身につける教育改革の取組みを紹介いただくことを考えている。

3. その他（今後の委員会日程）

今回は、令和5年7月10日(月)午後6時に開催し、開催要項及びプログラムの内容等を中心に検討することにした。